



YMCA のキャンプの持つ “魔法の力”

本多 貴子

Honda Takako

(株)今治 夢スポーツ「しまなみ野外学」
スタッフ兼キャンプナース
北海道こどもホスピスプロジェクト
元とちぎYMCAリーダー

▼YMCAとの出会い

YMCAとの出会いは中学生の時でした。普段一緒にいる仲間とは違い、学年も性別も障がいの有無も関係なく、みんなで色んなことにチャレンジして、しゃべって笑って、歌って、泣いて、同じ風景を仲間と共に見て、同じ体験を共有できることが心から楽しかったのを思い出します。

そして、そこにはいつも大好きなリーダーやディレクターがそばに居てくれて、その安心感に包まれ、様々な体験やチャレンジの場を提供してくれたのがYMCAだったのです。



▼リーダーとしての経験が

大学に入り、看護学生になった私は憧れの“Yのリーダー”に。1年目は無我夢中で失敗談も多々あり...それでも、同じ目標に向い、同じ世代の仲間たちと意見をぶつけ合いながら本気で過ごした時間はかけがえない人生の宝物となり、私の原点を築いてくれています。YMCAのキャンプで出会った子どもたちからは、本気で向き合うという事を、どんなに年齢が小さい子どもたちにもだって意見や思いや考えがある事、そして今という同じ時間を共に生きている仲間だという事を教えてもらいました。

自然の中で過ごすことが大好きで、仲間と共にいることに幸せを感じていた私。でも、病院実習や施設での活動を通して、自由に自然の中で仲間と過ごすことが出来ない人たちが沢山いるという現実を知りました。

出来ないと諦めるのではなく、出来るようにサポートする人になれば...きっと頬をなでる風の音を、鳥がさえずる声を、空に輝く星空を見る事ができる、この地球(ほし)の素晴らしさから生きる希望を共に見つけ歩いて行けるのではないかと考えたのです。



▼自然、そしてキャンプの力



大学を卒業した後は、看護師として働きながら様々なキャンプに関わり、今は仕事として野外活動に取り組んでいます。重い病気や障がいのある子どもやきょうだい・家族、避難生活を強いられている子どもたち、虐待や貧困にある子どもや家族、何かしらの生きづらさの中にいる子どもや家族。私たちを取り巻く環境は大きく変化を強いられ、キャンプでもその変化と多様性が求められています。

プログラム内容や自然もキャンプによって違います。どのキャンプも一人一人にチャレンジの場面や仲間を思う場面、自分自身と葛藤している場面など、たくさんの場面に溢れています。全てのキャンプで共通していることは、その人がその人らしくいていいという事を認めてくれる場所が自然の中にはいつだって用意されていて、『あなたは一人じゃない』大切に思っている仲間がいるという事なのだと感じています。

▼これからの 100 年

地球環境も経済もめまぐるしい変化を遂げていますが、いつの時代も、その変化はこの地球で起こっているという事、その変化する地球と共に私たちは、不憫さや不便さをも楽しみながら生きていくという事なのだと思います。

キャンプは常に変化する自然の中での活動であり、人と自然、人と人とのつながりの中で展開し、不憫さと不便さの連続です。キャンプを通して、自然との関わりや人との関わりに真正面から向き合い、変化を恐れずに、その変化に対応する力を育むこと、そして何よりも『あなたは这个世界でかけがえのない存在で、大切だよ』という事を同じ地球を生きる同志として伝えることができるのが Y M C A のキャンプの持つ魔法の力なのだと思います。



Profile

- ◆中学生からメンバーに、大学では宇都宮・那須 Y M C A を拠点に活動し、卒業後はフロストバレー Y M C A でもリーダーを経験。
- ◆国立成育医療センター／千葉県立こども病院で看護師として勤務。
- ◆2004 年から日本初の難病の子どものための常設キャンプ場「そらぷちキッズキャンプ」に携わり、その後、プログラムスタッフ。
- ◆2014 年～認定 N P O 法人「どんころ野外学校」ガイド。
- ◆2017 年～(株)今治・夢スポーツ「しまなみ野外学校」にてスタッフ兼キャンプナース。現在は、一般社団法人「北海道こどもホスピスプロジェクト」の立ち上げにも携わる。